

吉野川歴史探訪 堤防を築いた先人たち その2

こんにちは。別宮川三郎です。Our よしのがわ 10月号で高地蔵、城構えの家、印石などの洪水遺跡を紹介したところですが、11月26日（土）に約20名の皆さんと一緒に、自転車で探訪しました。当日、雨や寒さの心配をしましたが、天候にも恵まれ、事故もなく無事に終えることができ良かったです。当日の様子は後半の「吉野川歴史探訪～訪ねてみよう洪水遺跡～」で詳しくお知らせします。

さて、先月号は藩が主導で築いた「蓬庵堤」、「藤森堤」を通して、藩の築堤に対する考え方に迫りました。今回は、地域を守るために住民たちが命がけで築いた堤防について探訪しましょう。

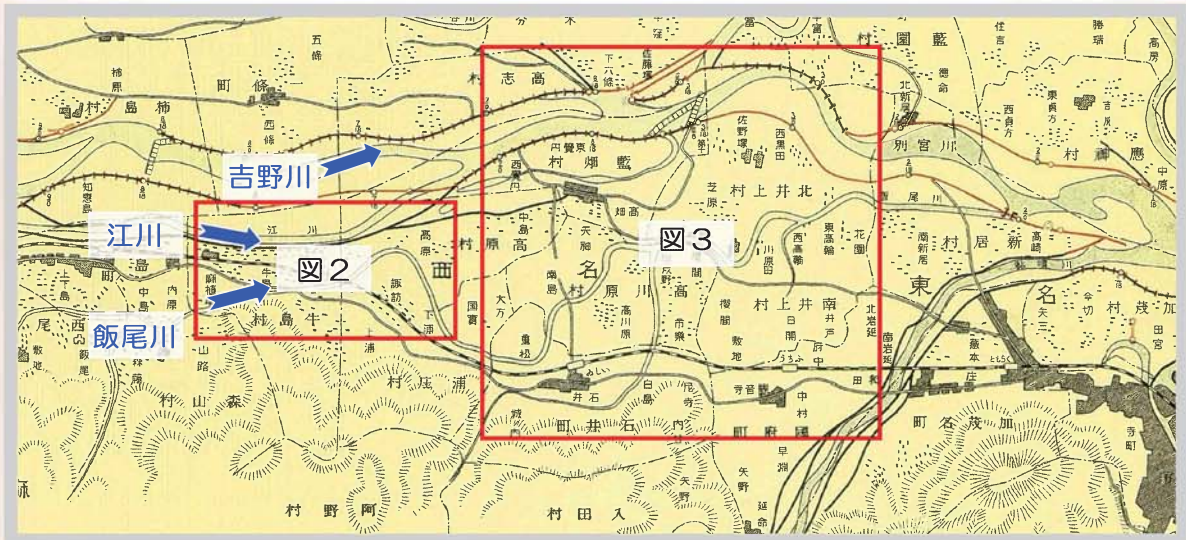


図1 吉野川改修竣工平面図

※大正15年5月8日に挙行された吉野川改修工事竣工式で関係者に配布されたものの複製

1. 切腹した「稲垣監物」と監物堤

吉野川市鴨島町には、吉野川、江川、それに飯尾川という三つの川が西から東へ貫くように流れています。現在は、江川も飯尾川も緩やかな流れですが、藩政期には、吉野川の洪水が溢れ一体的に流れることから、今では想像できないほど激しい流れでした。

宝暦6年(1756)9月の大洪水で甚大な水害を受けた牛島村民が困っているのを見て、藩に堤防を補強したいと願い出た人がいました。庄屋の稲垣監物という人です。監物は、村を守るため岸ノ上の堤防を補強して、汜濫水を南の向麻山の麓へ流そうと計画しましたが、この計画では浸水区域が下流の上浦村にまで及ぶため反対され、藩からも補強の許しが出ませんでした。しかし、牛島村を守りたい監物は非常手段を決意します。ある夜ひそかに、村人を呼び出すと、一夜のうちに堤防を築いてしまったのです。村人たちの喜ぶ姿を見て、監物はほっとしましたが、一緒には喜べませんでした。堤防が完成した朝早く、監物は堤防の上にのぼると、そこで切腹してしまったのです。「村人たちに罪はない。私一人の一存でやったこと」として、責任を一身に背負って死んだのです。

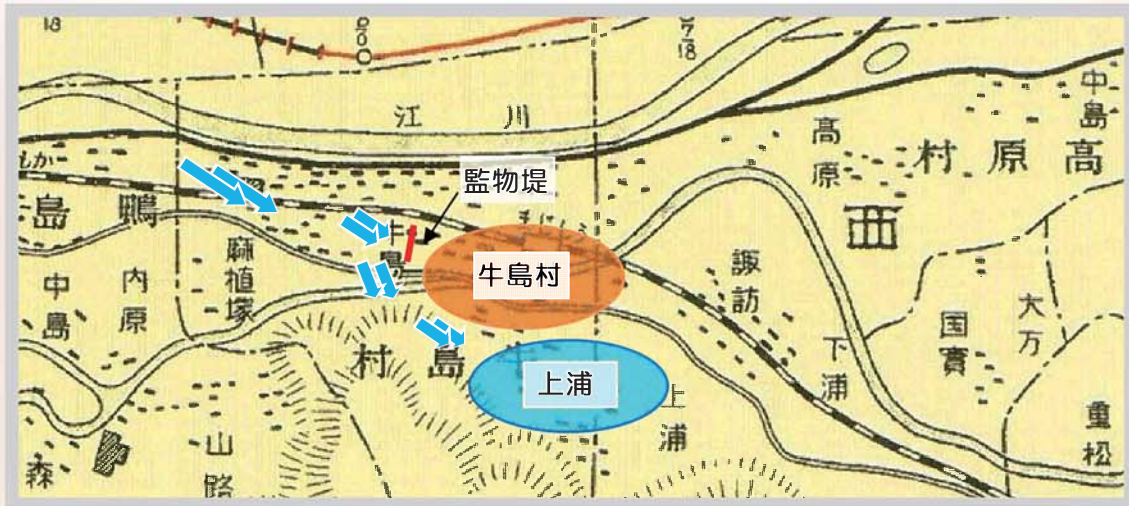


図2 洪水時における監物堤周辺のイメージ図

※監物堤の明確な位置は不明のため、図の堤防位置や洪水の流れ等はイメージによるものです。

完成した堤防は、土を掻き寄せたもので高さ2～3メートル、長さは90mほどでした。それから、この堤防のことを、稲垣監物の名をとって、「監物堤」というようになりましたが、現在は道路となって痕跡をとどめていません。

「監物堤」によって、牛島村の人達は随分と被害が軽減されただけではなく、精神的にも救われるものがあったと言われています。そのため、村人たちは、監物の徳を慕って桑上の飯尾川のほとりに「稲垣神社」を建立し、現在もその祭祀を怠らず霊を慰めています。境内には「稲垣監物碑」が苔むしています。



写真1 稲垣神社（吉野川市鴨島町）



写真2 稲垣監物碑

稲垣監物碑

この碑によれば稲垣監物は徳島藩士で、生誕年不詳。また、自害したのは宝暦三年九月九日とある。

温厚篤実な性格で、村人を指導した功績で藩からたびたび賞をもらうほどであったという。

大正三年（一九一四）建立

2. 築堤の願いも空しく非業の死をとげた「新居嘉藤治」

吉野川南岸の土地である名西郡中島、天神南島、高川原、石井、白鳥、加茂野、市楽、桜間、高畑、名東郡芝原の11ヶ村は、吉野川の洪水の度に水害が発生し苦しんでいました。特に、嘉永2年(1849)7月の酉の水とか阿呆水あほうみずと言われた洪水は、前代未聞の水害となりました。神宮入江川の右岸に堤防を造り、何とか水害から免れたい11ヶ村は、協議のうえ、流域組合を結成し、惣代そうだいに高畑村の「新居嘉藤治」を推挙して、事業成立の依頼証を作成し嘉藤治に一任しました。

嘉藤治は藩に築堤を願い出ましたが、許可が下りるまで3年の歳月がかかりました。嘉藤治たちは、早速工事に取りかかりましたが、工事の途中、先頭に立って働いていた高畑村の人達が、「この堤防の高さでは心許ないから、少しばかり土盛りをしては」と嘉藤治に持ちかけたのです。

この言葉に嘉藤治は黙って頷うなずきました。そして、一夜のうちに堤防の嵩上げを決行したのです。11ヶ村の人達は大いに喜びましたが、一夜のうちに川の中になった覚円村の人々は、郡代奉行ぐんだいふぎょうに訴えを起こして「堤防の引崩し」せいげんを請願とがしました。

これに対して、郡代奉行は現地調査を行い、嘉藤治たちの不法を咎め、「速やかな堤防の引崩し」の処分が下されたのです。

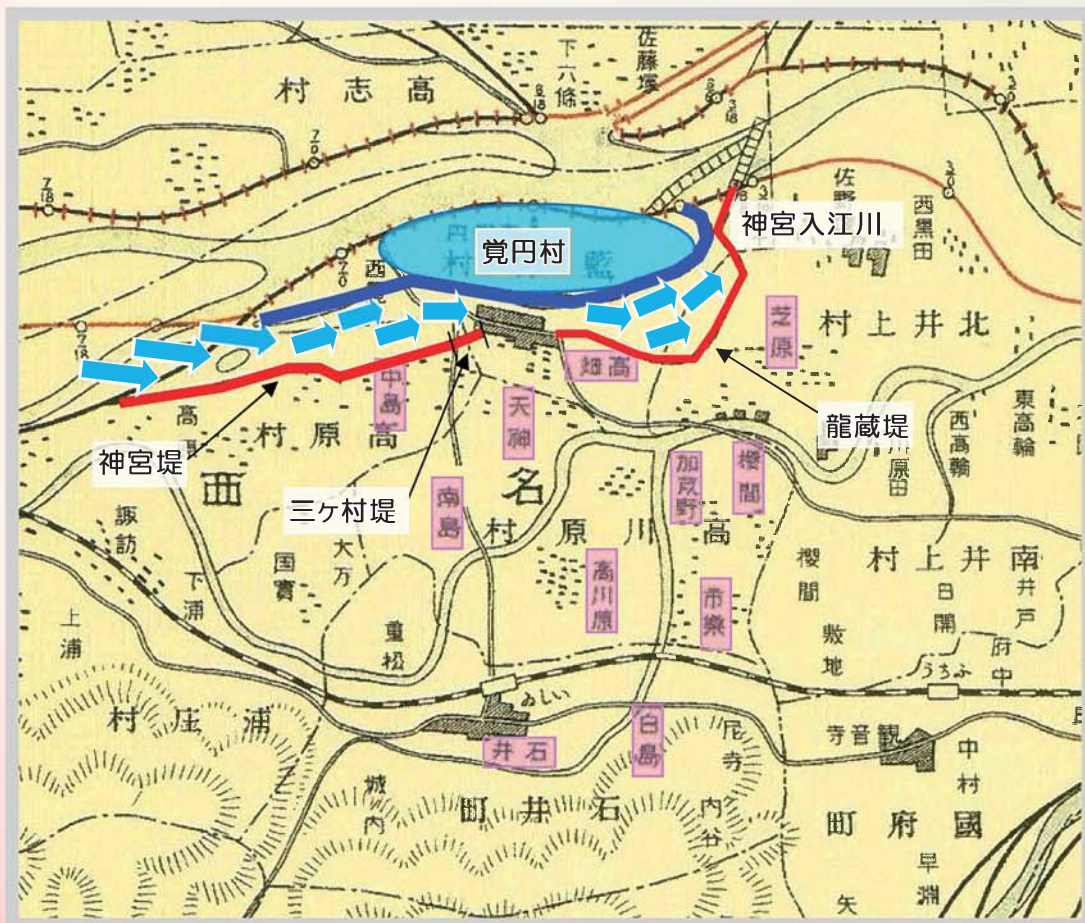


図3 堤防嵩上げ後の洪水イメージ図

この裁きを受けた嘉藤治は、訴えの主を恨んで、ある夜ひそかに門前で切腹をはかりますが、刃が腹に突き刺さるか否かの瞬間、人に見つかって果たせませんでした。嘉藤治は死ぬに死ねず傷口の痛みに耐えて1年ほど床に臥ふしていました。

その間に藩役人の現場見分があり引崩し堤の測量石の据込みを知った嘉藤治は激怒し、安政元年(1854)、徳島の役所に出かけ訴訟箱に「堤防築立再願書」を投じましたが採用されることはありませんでした。

また、嘉藤治が徳島の役所に出かけている間に、築堤工事の先頭になって働いていた高畑村の二人が「堤防率先増堤」の罪で牢につながれ、ついには阿波・淡路両国から追放されてしまいます。裁きは、嘉藤治にもおよび扇動せんどうと箱訴はこその罪で入牢。さらに、安政4年(1857)に国外追放となります。

しかし、どこまでも堤防事業を成就させようと讃岐国八栗山やくりさんに登り断食祈願を行います。途中、山僧から断食は許さずと申し渡され、やむなく下山すると、次には阿波国美馬郡の大滝山にのぼって21日間の断食祈願を行います。夢枕に神のお告げもなく、天を仰ぐばかりであったと言われています。

嘉藤治はその後、安政6年(1859)、徳島に戻るとき、勢見山金比羅神社へ参拝して築堤嘆願書等の必要書類と懐剣を神前に備えてから絵馬堂でしばらく黙考したのち、絵馬堂の断崖だんがいから身を投げたのです。享年76歳。

堤防の嵩上げに始まって、自殺未遂、直訴、入牢、断食祈願、ついには投身自殺とあまりにも壮絶な一生でした。嘉藤治の死が高畑村に伝わるや、村人一同その死を嘆き悲しみました。対立していた村民たちも目が覚め、堤防は60cm程度かさ上げされました。ついに、新居嘉藤治の執念が実を結んだのです。



写真3 三ヶ村堤（旧堤防）



写真4 金比羅神社と絵馬堂からみた風景

堤防をどこかに造れば、守られる地域が生まれますが、それに反して水害が拡大する地域があります。今回は地域を守るために命をかけた人達を探訪しましたが、治水はこれらのバランスが極力崩れないように進める必要があります。私たち河川管理者は、このことを「治水の上下流・左右岸バランス」と呼んでいます。

今回は、頻発する水害を少しでも軽減させるために、洪水流量を調節するため堤防の一部を低くし越流させる、かなり精微な治水策である「ハケ村堰」、「江川大堰」を探訪します。

「吉野川歴史探訪 ～訪ねてみよう洪水遺跡～」

どうも、別宮川三郎です。

「吉野川歴史探訪」の冒頭でご案内しました「吉野川歴史探訪～訪ねてみよう洪水遺跡～」(第3回吉野川現地(フィールド)講座)の様子を「吉野川歴史探訪」の番外編として紹介します。

ここでは、洪水遺跡を自転車で巡った様子と参加して頂いた皆さんの感想を紹介させていただきます。

では早速、皆さんと一緒に当日の様子を振り返りたいと思います。



まずは、皆さんにお集まりいただきました、「[石井河川防災ステーション](#)」で、吉野川の変遷や位置関係を分かっていたくために、明治34年の実測平面図と平成24年の実測平面図、航空写真を重ね合わせた資料などを見てもらいました。また、吉野川やこの後自転車で巡る洪水遺跡について概要を知っていたから、現地に向かってスタートしました。



最初の洪水遺跡は「[愛宕地蔵](#)」と呼ばれる高地蔵を訪れました。ここでは明治21年7月に発生した洪水によって工事中の堤防が決壊し、もちの木によじ登り助けを求めながらも、民家が引っ掛かり一瞬にして尊い命が失われた話をしました。現在の立派な堤防を背にしなから、当時、もちの木があったあたりを静かに見守る高地蔵を、皆さんは感慨深い様子で見つめていました。



次に訪れたのは、旧堤防の「[三ヶ村堤](#)」です。ここは当初、予定していなかったのですが、せっかくの機会なので皆さんに走っていただきました。往路ではあえて何も言わずに、復路の前に旧堤防を走ってきたことを説明しました。ほとんどの方が、まさか今走った道が旧堤防! ?とビックリした表情をしていました。同じ道に戻る時、今度はゆっくりと旧堤防を感じながら走っている様子でした。



「印石」に行く途中、今とは異なる神宮入江川の当時の川幅を高低差によって感じていただきました。車ではなく自転車で探訪しているのかわりを知っていただきました。間もなく印石のある産神社に到着し、昔から堤防の高さが村ぐるみの争いに発展する程、重要であったことを知っていただきました。そして、実はまだ19本が未発見であることに驚いていました。



歴史探訪の行程も中盤に差し掛かり、次に向かったのは国指定重要文化財に指定されている「田中家」です。田中家当主がご説明くださり、石垣の向きや高さに洪水に対する工夫がされていることや、いざというとき、救命ボートの代わりとなるように作られた、よし屋根について教えていただきました。吉野川の洪水と共に歴史を刻んできた、洪水遺跡の象徴とも言える田中家を存分に見学しました。



今までの箇所は別宮川三郎が説明を行いましたが、次世代へも吉野川の歴史を継承するため、「龍蔵堤」の説明は若手職員が務めました。少し緊張した感じでしたが、真剣に聞いてくれる皆さんのために、一生懸命に説明していました。今では考えられない悲しい物語が進むにつれ、背後に残された龍蔵堤にかけられた人々の想いが伝わったのではないのでしょうか。



最後に「第十堰」を訪れました。傍にある看板には第十堰の変遷について記されています。普段、通り過ぎていたこの場所が、時代と共に形を変えてきたことを知っていただきました。そこには、人の思い通りばかりにはならなかった、吉野川の雄大な力強さを感じることができます。穏やかに流れる吉野川や第十堰を見つめる皆さんの目には、どのように映ったのでしょうか。今回の歴史探訪はこれにて終了しました。

参加者の皆さんから、「吉野川歴史探訪」のご感想をいただきましたので紹介します。

(足立さん)

石井町は、私が住んでいる鴨島町のお隣ということもあり、結構身近な町だと思っていましたが、今回このような形で巡ってみると、全然知らないことばかりだったということに気づきました。吉野川は恵みの川であると同時に「暴れ川」と呼ばれるほど、氾濫を繰り返してきた歴史があります。そんな中で暮らしていく覚悟をした多くの人たちが、苦勞や工夫、時には命がけで洪水から命を守ろうとした証がこんなに多く残されていることを、今回のフィールド講座で学ばせていただきました。

先人たちが残してくださった遺跡などから学び、自分ができる備えや心構えについて、あらためて考えていきたいと思います。

貴重な経験をさせてくださり、ありがとうございました！

(高田さん)

吉野川の堤防が完成して大きな洪水被害を経験した人が少なくなった現在、過去の洪水の記録は伝承でしかなくなっています。さらに、今回周遊した愛宕地蔵、印石、神宮堤、龍蔵堤などの洪水遺産は、毎日その場所に存在していながらその意味や歴史を知る人はほとんどいないことと思います。近年、鬼怒川堤防決壊や東日本大震災の津波被害など、自分が遭遇していなくても映像により水の怖さを目の当たりにすることがあります。今回周遊している道中、この地域でも同様の水害に悩まされたことが脳裏に浮かびました。また、度々現地周辺を通る機会がありますが、普段、何気なく自動車で通過する道路でも、自転車でのんびり走るによりいつもは気にしていない景色や地形の変化を肌で感じる良い機会となりました。

担当の方の説明もわかりやすく、とくに吉野川の治水や歴史に対して熱意が感じ取れ、終始楽しく過ごさせていただきました。

この度は、貴重な体験の機会をいただき、ありがとうございました。

(河野さん)

吉野川は徳島県民にとっては馴染み深い川で、私自身毎日通勤中にしらさぎ大橋を渡っているのですが、過去の歴史を学ぶ機会は少なく、今回の講座を楽しみにしていました。

現在の吉野川というと、河口付近の雄大で静かな情景を思い浮かべますが、かつては暴れ川とも言われ多くの人々が制御に尽力していたことを実感しました。特に講師の方がおっしゃった『先人から続いてきた営みを、今一時的に預かっている』という言葉は非常に印象に残りました。

各史跡の説明では、しばしば命を捨てて堤防の整備を訴えた人、自ら望んで堤防の人柱になった人などの伝説が紹介されました。それほどまでに吉野川の治水、制御は周辺の人々にとっての関心事であったと知り、改めて昔から今まで、治水のために尽力してきた方々への感謝の念を抱きました。今回のイベントでは、吉野川の歴史と治水のための多くの人々の営みを知ることができました。今後も、吉野川と防災について、様々なことを学んでいきたいと考えています。

徳島河川国道事務所の皆様、ありがとうございました。

(岩田さん)

私は吉野川の河口に近い徳島市の渭東地区で育ったため、吉野川南岸は子供の頃から慣れ親しんだ遊び場です。このような企画が好きな友人に「Our よしのがわ vol.5」を見せ、興味を持たせて二人で参加させていただくことになりました。

まずは座学。自分にとって吉野川は、いつもそこにある古里の川です。今まではその川の歴史を知ろうとしたことが無かったので、座学で見る資料、聞く内容はとても新鮮なものでした。吉野川の歴史とは氾濫、洪水、争いの歴史なんだとつくづく感じました。その中で低い堤を築造するだけでも命がけだったことは衝撃的でした。

そして楽しみにしていたのが自転車での洪水遺跡巡りです。心が震える座学で聞いた遺跡を目の当たりにすると、頭の中では当時の状況が想像され、周りの景色まで時代をさかのぼってしまいます。本当に興味深い遺跡巡りでした。一緒に行った友人も「面白かった」と満足しておりました。

今回お世話くださった事務所の皆様方、お世話になり本当にありがとうございました。次回からも是非参加したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

あっ、それと、この企画と関係ないですが「遊び人 M」さんの「吉野川で遊ぼう」は、個人的にとっても楽しみにしています。

(佐藤さん)

私は、昔から吉野川の近くで暮らしておりましたが、私が生まれた時点で既に堤防は完成しており、吉野川の氾濫などは考えたことがありませんでした。

今回、吉野川歴史探訪に参加し、現在の堤防等は洪水に対する先人たちの多大な尽力や地域間での争いなどを経て成り立っていることを改めて認識することができたとともに、そのような事実があったことを忘れてはいけなかったと思います。また、自転車での移動により昔の川幅などを直接感じることができ、良かったと思います。

次回も機会があれば参加し、吉野川について知識を増やしていきたいと思っています。



皆さんからのご感想は、これからも吉野川の歴史を多くの方へ伝えていくうえで、大変励みになりました。あらためて感謝いたします。ありがとうございました。

今回の吉野川歴史探訪を通じて、吉野川は多くの洪水遺跡があり、それぞれの箇所先人達の熱い想いが形となって、今もなお残っていることを再認識することが出来ました。

しかしながら、吉野川の歴史を紐解こうとすると、まだまだ解明されていないことがたくさんあります。吉野川の歴史を皆さんに深く知っていただけるよう、これからも探究していきたいと思っています。そして、「Our よしのがわ」Vol.5のタイトルにもありますように、「未来に伝えよう！吉野川の歴史遺産」を胸にこれからも頑張りたいと思います。

次回の開催時には、またご案内しますので是非参加ください。